

夏の感染症から子ども達を守る

神戸大学大学院医学研究科内科系講座 小児科学分野こども急性疾患学部門
中川 卓

これから待望の夏休みです！しかし、暑さから食欲不振になったり、休み中は生活習慣が乱れ、栄養バランスが崩れた食事や夜更かしが続いて、なにかと体調を崩しがちです。感染症は、そんな私たちを狙っているのです。今回は夏に流行る感染症にはどんなものがあるのか、その原因は何か、予防法はどうすればよいのかを説明します。感染症に対する正しい知識と予防方法を身につけて、元気に楽しく夏を過ごしてください。

<夏に流行るウイルスでおこる感染症>

手足口病、りんご病、ヘルパンギーナ、風疹、プール熱、流行性結膜炎、水イボ

<夏に流行る細菌でおこる感染症>

腸管出血性大腸菌感染/溶血性尿毒症症候群、カンピロバクター腸炎、サルモネラ腸炎、（稀ですが乳児ボツリヌス症）

MEMO:

熱中症から子どもを守る

神戸大学大学院医学研究科 内科系講座 小児科学分野 小児急性疾患学部門
久保川 育子

2011年 東日本大震災の影響で、昨年夏から節電が話題になっています。しかしながら、地球の温暖化は着実に進み、我が国の平均気温はこの10年間で史上例を見ないほどの速さで上昇しています。これから本格的な夏を迎えようとしています。しかし、「熱中症」の危険は、梅雨でジメジメしてくるころから高くなり、梅雨明けの猛暑の到来とともに最高となります。従来、熱中症の多くは、高温環境下での労働や運動活動で起こっていましたが、最近では自宅や車内など日常生活においても増えています。

熱中症の症状は一様ではなく、症状が重くなると命に危険が及ぶこともあります。また、体温調節機能が低下している高齢者や、体温調節機能がまだ十分に発達していない子どもは、大人よりも熱中症のリスクが高く、さらに注意が必要です。

今日は、気候・環境の変化に影響を受けやすい子どもを守るために、われわれ大人がどのように「熱中症」を理解し、予防・対処すればよいかについて、最新の情報をもとにお話しさせていただこうと思います。子どもたちの安心と安全を守るために、「熱中症」について一緒に考えてみましょう！

MEMO:

こどもが病気の時に家でできる初期対応

神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患部門
栗野宏之

こどもの体調は、急に变化します。その体調の変化が夜中や外出先や帰省先であった場合、すぐにかかりつけ医や病院に受診できないことがあります。そもそも病院につれていくべきかそうでないのか判断に困る場合があります。

神戸こども初期急病センターを過去に受診した患者さんの訴えで一番多い症状が発熱でした。また嘔吐で困られて受診した患者様も多くおられました。そこで今回は、こういった症状をみた場合、まず初めに何をチェックするのか、その症状に対してどういう対応をすればよいかについて説明をします。また、こどもの発熱や嘔吐は 1 日でなおるものとは限りません。症状を抱えたまま数日自宅で過ごすことも多いと思いますが、これらの対応を知ることで、よりよい自宅療養が可能と考えます。

MEMO: